

主日の福音 2025/4/20(No.1351)

復活徹夜祭 (ルカ 24:1-12)

十字架のイエスも復活すると呼びかけている



主の復活、おめでとうございます。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。」(26・6) 空の墓に立ちすくむ婦人たちに、神の使いはイエスの言葉で解き明かします。

神の使いがイエスの言葉を引用したのは、イエスの言葉だけが、動揺する婦人たちを納得させる力を持っていたからです。「婦人たちはイエスの言葉を思い出した。」(24・8) 姿形が無い以上、婦人たちの拠り所はイエスの言葉だけでした。

婦人たちは、墓から帰って、十一人とほかの人皆に一部始終を知らせました。しかし使徒たちは、「この話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった」(24・11)とあります。弟子たちをかばって言うならば、弟子たちもまた、イエスの言葉だけが自分たちを納得させる力を持っていたので、まだ信じられずにいたのでしょうか。婦人たちの言葉では、自分の殻を破って、墓に向かうことができませんでした。

しかしペトロは墓に向かいます。「ペトロは立ち上がって墓へ走り、身をかがめて中をのぞ(いた)」(24・12)。「立ち上がって墓へ走った」とありますが、座っていた人が立ち上がるためにはよほどの理由があるはずです。ペトロは、婦人たちの言葉を「イエスの言葉を含んでいる」と受けとめて、墓へ行ったのです。ペトロは誰よりもイエスの言葉を必要としていたし、誰よりも先に出来事を理解したかったはずです。ただ、墓には亜麻布しかなかったので、驚きながら帰りました。

婦人たちは神の使いを通してイエスの言葉を思い出しました。使徒たちを代表するペトロは、イエスの言葉を確かめようとして、墓では確かめることができませんでした。登場人物は共に「イエスの言葉だけが、自分たちを納得させる力を持っている」と考えていたのです。

最後に考えましょう、今日ここにお集まりの皆さんは、何を求めておいでになったのでしょうか。「年に一度は、御復活祭の頃に聖体を受ける」この義務からでしょうか。「復活の喜びを教会家族皆と分かち合いたい」こんな思いを持って、おいでになったのでしょうか。

説教を聞きながら、「婦人たちやペトロのように、私もイエスの言葉だけが私を納得させる力を持っていると信じています。」「ですから復活したイエスの言葉を確かめに来ました」こんな動機になってくれたら素晴らしいと思います。

もしかしたら、「今年の復活徹夜祭では、イエス様は何も語っていないではないか」と考えているかも知れません。ではどこに、復活したイエスの言葉を求めたら良いのでしょうか。十字架上のイエスが語ってください。「人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている」(ルカ 24・7)。

復活の主日(日中)(ヨハネ 20:1-9)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。